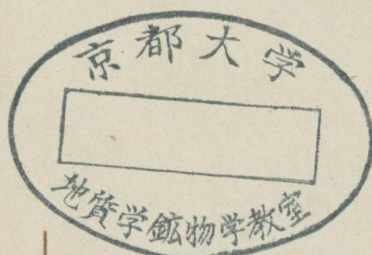


地 學

京都大學理學部

地質學鑛物學教室編集



2

1950, March

鐵明礬石の研究……………田久保實太郎 (1)

齋藤 光惠
港 種雄

油田地下構造と
石油比重との關係……………木村 春彦 (10)

富山縣及石川縣の
地質學的研究 (其の2)……………市原 實 (17)

石尾 元 森下 晶
中川衷三 津田禾粒

青森象の層準について……………湊 正雄 (28)
深田 淳夫

淡路島志筑ノーライトの産狀
とそれに基づく考察……………吉澤 甫 (33)

山口縣西北部の硯石統に
就いて (豫報)……………高橋英太郎 (36)

京都府加佐郡河西村地方の
石灰岩礫岩の時代……………中澤 圭二 (38)

郷土の地質
京都府地質誌……………松下 進 (4)

地學出版始生社版

SCIENCE OF THE EARTH

No. 2, March 1950.

Original Articles

- A Study on Jarosite J. TAKUBO, M. SAITO, and T. MINATO (1)
- On the Specific Gravity of Oil with Special Reference to the Under-
ground Structure H. KIMURA (10)
- Geological Studies of Toyama and Ishikawa Prefectures (Part 2)
...M. ICHIHARA, H. ISHIO, A. MORISHITA, C. NAKAGAWA, and K. TUDA (17)
- On the Geological Horizon of Palaeoloxodon aomoriensis.....
..... M. MINATA, and A. FUKADA (28)
- On the Norite from Shizuki, Awaji-Shima H. YOSHIKAWA (33)
- On the Ikstone Series of North-Western Part of Yamaguchi Prefec-
ture E. TAKAHASHI (36)
- Geological Age of the Limestone-Conglomerate from Kawanishi-
mura, Kyoto Prefecture K. Nakazawa (38)

Regional Geology

- Geology of Kyoto Prefecture..... S. MATUSHITA (41)

北海道大學教授 理學博士 故大石三郎著

東亞古植物分類圖說

A 5 版 260 頁 別冊圖版 114 頁

定價 600 圓 (〒40)

日本はじめ東亞各地域にわたる各地質時代の化石植物をすべて網羅した分類書、326 種の化石復原圖は鑛床調査、一般地質調査に必須の文献。戦後地學關係圖書中の最高峯。

御 詫 び

本書の出版がいろいろの事情でおくれて申譯けありません。ようやく印刷にかかり九月上旬配本の準備を致して居ります。前金御豫約者には今しばらくお待ち下さい。なほ他に本書御希望の方は九月十五日迄に御申込み下さい。550圓(送料當方持)の割引價格の特典をそれまで保留致します。(振替にて御送金下さい)。本書は一般市販は致しません。

京都市中京區西ノ京北聖町十三

發行所 地學出版始生社

振替京都7611

最大0.9 mになるが、川の北では0.1~0.3 mである。下部層の上部5 mは粘土・砂互層である。北又礫層は厚さ約60 mであるが、北の方が厚い様である。洪積層は全體として北方へ緩斜しており、高山村の南部で基底の高さは240 mであるが、伊賀川より北では150 mに下る。基底面の形は平らではなく、波を打つている。

以上記述したところで判る通り、京都府南部の舊洪積層は上・下の二層で分けられる。上部層は礫質であつて向日町礫層・桃山礫層・北又層と呼ばれるものであり、下部層は粘土・砂の層であり、亞炭を夾むことがある。Letter classification でいえば下部層はI (Plio-Pleistocene) に當り、上部層はJに當ると考えられる。上部層は河成層であるのに対して、下部層は一般に湖成で、一部(谷口介層)が海成である。

7. 段丘礫層 これは舞鶴地帯に多いものであるが、平地より20~50 m高い台地を造る礫層である。福知山市東方の長田野(東西5 km, 南北2 km)が最も顯著であるが、綾部東方・北方・梅迫附近に發達する。前記

の太平洋側・日本海側の斜面の分水線が通る山陰線胡麻驛附近や船井郡須知町近傍にもある。由良川上流に發達する段丘にも礫層がのつている。

8 冲積層 これは山城盆地・亀岡盆地をはじめ、各盆地内の平野や谷の中の洪濁地を造つている。古く比企博士は京都市内の冲積層の調査をしたが、その後には京都市内一部の冲積層について西尾銈次郎氏や上治博士の研究がある。今までのところ試錐の深さは100 m以内である様であるが、地質は全部冲積層であつて、同層の厚さは恐らく100 m以上あるものと思われる。比企博士によれば冲積層は砂と礫からなり、間に0.3~1 mの泥層(赤又は青)を數枚はさんでいて、層は南西に緩斜する。西尾氏は四條通に沿つて、數ヶ所に試錐をしたものであるが、その結果によれば、山陰本線以東では地表から4~7 mの深さまでは亞角礫層であつて、それより下の層は粘土質圓礫層を主とし、間に粘土層をはんでいるが、山陰線以西においては上部の亞角礫層はなくなり、粘土質圓礫層が直接地上に現はれるという。(未完)

地 學 第一號 定價 ¥ 120 千 ¥ 12

研究報告

講 座

- | | |
|---------------------------------|-----------------------|
| 南滿洲小市炭田の地質について (小 島 信 夫) | 地球及岩石鑛物の年齡決定法 (初田基一郎) |
| 富山縣西部及石川縣東部の第三紀層 (池 邊 展 生) | 化石整形術 (一) (加藤不二男) |
| 重力測定に於ける振子台共振の土地による相違 (熊 谷 直 一) | |
| 山東省棲霞縣唐山地方霞石玄武岩に就て (春 本 篤 夫) | |
| 合ニッケル紅土の研究 (田久保實太郎, 鶴飼保郎) | |

雜報・解説

第一號の申込は —— 京大理學部地質鑛物教室(京都市左京區北白川追分町)へ

昭和25年3月27日 印刷	地 學
昭和25年3月30日 發行	定價 ¥ 120.00
編集者 京都大學理學部 地質學鑛物學教室	千 ¥ 12.00
發行者 笹 川 儀 三 郎	京都市中京區西ノ京北聖町壹
印刷所 大日本印刷株式會社 京都市右京區太秦上刑部町十	發行所 地學出版始生社 振替口座京都 7611